

第6回事務局長会報告

日時 平成24年10月2日(火)
11時10分～15時

会場 江戸東京博物館
1階 会議室

出席者 全国連合退職校長会
会長・副会長・部長・
委員長・事務局長・
事務局長職員 22名
都道府県退職校長会
事務局長・事務局長
代理者 47名

司会進行 総務部長 入子祐三
一 開会の辞

二 副会長(九州) 富永憲市
全連退「綱領」唱和
先導 教育振興部長
大野幸男

三 会長挨拶

公私共にご多忙のところ、事務局長会にご参集いただき、ありがとうございます。事務局長さんの仕事は、情報の発信・受信のキーステーションの役目を持ち、各団体の事業の展開、校長会との連携協力、地域の教育の振興・充実、会員の生活の安定に資する幅広

い活動をされ、まさに三面六臂の活躍をされていることに敬意と謝意を表します。退職校長会の発展・充実の一つの要素は、会員各位が魅力を感じることができていることにあると思います。今日は、事務局長の皆さんの忌憚のない発言、情報の交換・共有を期して意義のある会になることを期待しています。



四 報告事項

- 1 第1回副会長会報告及び三省庁への要望書提出について(会報185号参照)
- 2 各部・委員会の報告
- (1) 総務部(省略)
- (2) 教育振興部
 - ・「教育の日」の制定推進と、制定都道府県の事業の充実に寄与する。
 - ・地域社会の教育上の役割と

責任について研究する。
過去の師範教育との比較の上で、教員養成のあり方について検討する。

(3) 福利厚生部

- ・三省庁に提出する要望書の内容で、年金、高齢者医療等の要望事項をまとめた。
- ・25年に米寿、上寿を迎える方々の調査をした。
- ・昨年度受賞された叙勲の調査を行った。

(4) 会報部

- ・来春新しく会員になる予定の方向けの勧誘用に会報186号を増刷する。

(5) 会計部

- ・会費の納入は順調に進んでいる。
- ・諸事業を円滑に進めるために適切な運用執行に努めている。

(6) 生涯学習委員会

- ・全国に発信する事例を4事例(秋田県・群馬県・石川県・鳥取県)にしぼった。

(7) 教育課題委員会

- ・中教審の部会において審議されている課題を中心に勉強している。そして、要

望・意見を提出する機会には、活用していきたい。
高等学校教育、小中、中高連携接続について関心を持ち、情報収集していきたい。

3 第2回、第3回常任理事会の報告(略)

4 第6回全連退教育図書出版について

- ・平成26年12月に、全連退50周年事業の一環として、第6回教育図書出版を予定している。
- ・50年にわたる全国の初等中等教育の優れた実践を振り返り、学校教育の不易の精神と伝統ある指導力を見直し、わが国の教育のありようについて考えてみたい。
- ・そして、学校教育に携わる人たちが貴重な実践から学んで、勇気と新たな意欲を高められることを願って出版を計画した。
- ・各都道府県の地域性のにじむ特色ある教育活動とその成果を、できるだけ異なる項目、分野から2～3項目選んで推薦して欲しい。
- ・学校としてあるいは地域と

して取り組んできたことを取り上げる。

・原稿締め切りは25年12月頃を予定している。

5 リーフレットの配布について

・都道府県の退職校長会の方から、会員募集のときに役立てたいので、全連退でリーフレットを作って欲しいとの要望があり、作成した。会報186号と一緒に必要部数を送付する。

6 会員組織の実態調査について

・今後の財務状況の健全化の観点から、将来を見据えて、各県の実態をよりよく知るために調査を行った。

・幼小中高、特別支援の校種別と年代別の調査を行った。

7 会員加入状況調査と優良県への感謝状の取り扱いについて

・会員の維持率は97.3%と、各団体の皆様が一生懸命努力されていることが分かった。維持率・入会率ともに90%を超えた21県に感謝状を贈らせていただく。

五 加入率等優良団体（県）

へ感謝状贈呈

代表 佐賀県退職校長会



—— 昼食・休憩 ——

六 情報・意見の交換、協議

1 分科会 8グループに分かれて、特色ある活動・事業、当面する課題、本部への要望等話し合う。今回も地区ごとではなくいろいろな地区が混ざり合って構成された。（例 Aグループ

—— 北海道、栃木、新潟、滋賀、岡山、福岡小、沖縄）

2 全体会（各グループの発表）

表）

Aグループ
・高齢者の割合が比較的高く

なってきた。会費免除をしていくところもあるが、

会計の負担が大きくなってきた。それが課題である。

・地域社会、各家庭、学校現場は退職校長会に何を期待しているかを検討していく。

・学校現場から退職校長会にどんな支援をして欲しいか調査して、それに基づいて

支援活動を展開しているところがある。

・事務局として部屋を公的に借り上げていないところは、非常に苦労している。

・B5判からA4判は世界の潮流になっている。

Bグループ
「教育の日」が制定されているところは、それにしたがって行事等を行っているが、

地域によって格差がある。まだ制定していないところは、それに向けて努力している。

・生涯学習の実践事例集が第6集まで完成され、それを現場に配布されて活用しているところがある。

・総会を各地域持ち回りで行い、担当地区の会員の関心を

を高めているところがある。

Cグループ

・昨年度の東日本大震災ではいろいろとそれぞれの機関からご支援を頂き本当にありがとうございます。おかげさまで東北各県は復興に向けて頑張っています。

（発表者 岩手県）

・学校支援について、どんな支援がどのような形でできるのかの一覧表を提示しているところがある。これは、

支援を受ける側にとっても明確なことなのでいいことだ。

・被災県で、鎮魂の歌を退職校長会で作詞作曲して、それをCDにして各学校に配布した。

・本部への要望として、会費免除について何らかの形で検討していただきたい。

Dグループ

・支部活動の活性化のために地区へ補助金を出しているところがある。

・本部として会員名簿を作らなくなると、各支部で作成した名簿を本部が

- ・集めてそれを使っている。
- ・入会者へ退職校長会入会の意義についてなかなか伝わらない。

- ・会報、年間活動・研究報告がもっと早く配布されるといい。

Eグループ

- ・人材バンクでは、パンフレットを配布して、それを活用してもらおうとか、ゲストティーチャーとして協力するとか、ひとり親の家庭の支援など多く出された。

- ・「教育の日」には、現職の校長と交流しているいろいろな行事を行っているところもある。

- ・「生きがい作品展」を実施しているところでは、本当に生きがいになるような作品が出せるように工夫を進めている。

- ・再任用の校長が非常に増えている、その人たちはまだ現職だという意識から、退職校長会に加入しない人が多いところがある。
- ・調査をもう少し簡素化してもらえるところがたい。

Fグループ

- ・各地区ごとに教育問題研究会を開催しているところがある。

- ・講演・趣味展・発表会を中心に毎年フェスティバルを行っているところがある。

- ・会員の意見や考え、日ごろ感じたことを多くの方に書いてもらい、発行して、会員の近況が分かると好評なところがある。

- ・新会員への勧誘活動を9月から展開することにしたところがある。

- ・地域探訪ウォークという形で、地域をみんなで歩いて回り、新しい地域の素晴らしさを発見するところがある。

- ・「豊かな日を求めて」という冊子を発行して、会員に読むことや書くことの楽しさを味わってもらおうという事業を展開しているところがある。

Gグループ

- ・昨年は全連退をはじめ、全国の都道府県から見舞金や義援金をいただき、本当にありがとうございます。



各学校や教育委員会に届けまして、大変喜ばれました。
(発表者福島県)

- ・話し合った内容については重複しているので、省略する。
- ・要望として、メールでやり取りして欲しい。また本部のホームページを更新して欲しい。教育図書出版については、もっとゆとりを持って計画し、充実した内容にして欲しい。

Hグループ

- ・個人または各支部から資料を提供してもらい、文集を作成しているところがある。

- ・事務局が一人で、過重負担になっているところがある。
- ・役員や事務局を引き受けてくれる会員が少ない。
- ・組織の拡充のためには、魅力ある退職校長会の運営をしなければならぬ。
- ・調査の精選を行って欲しい。

七 会長のみとめ

各団体にある多くのプロブレム(課題・難問)をすぐれたイノベーションによって克服している、その姿勢、目的を持った活動に心を打たれました。全連退の将来に対する使命感溢れる行動力で、さらなる発展と存在感の高揚が予見できる発表でした。本部への要望については、現在検討しております。ここ数年IT化が相当進んできています。本部としてもそれを念頭において、今後の活動に資していきます。ありがとうございます。

八 「全連退の歌」 斉唱

指揮 事務局次長 中原慎三
九 閉会の辞

副会長(東海北陸)大竹武士